

ニューズレター 2011 年度第1号

日本音楽表現学会 2011 年 7 月 31 日発行

日本音楽表現学会第9回（甘露）大会特集

目 次

1. 【巻頭言】 日本音楽表現学会の今	安藤 政輝	2
2. 日本音楽表現学会第9回（甘露）大会報告		3
1) 甘露大会を終えて	後藤 丹	3
2) 大会参加者の声	篠原 良三・大竹 紀子・安田 健太	3
3) 2011 年度総会報告		4
4) 大会スナップ集		11
3. 【随想】 忘れられた唱歌たち	影山 建樹	15
4. 新入会員紹介		16
5. 日本音楽表現学会後援コンサート等情報		18
6. 会員によるCDリリース		20
7. 会員による新刊		21
8. 教員公募		21
9. 事務局からの重要なお知らせとお願い		22
10. 各種書式		23
11. 日本音楽表現学会第10回大会のご案内		24
12. 役員名簿・編集後記		24

日本音楽表現学会



所在地：〒616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：〒520-0862 大津市平津 2-5-1 滋賀大学教育学部杉江研究室気付

Tel. & Fax. 077-537-7792

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmexs/>

年会費 (5,000 円) の振り込み

→郵便振込口座：01370=6=78225 日本音楽表現学会

日本音楽表現学会の今

日本音楽表現学会副会長 安藤政輝（生田流箏曲）



東日本大震災

ご存じのように、2011年3月11日、東北・関東地方太平洋沿岸部を中心として、地震・津波およびそれによって引き起こされた原子力発電所の事故という大災害に見舞われました。会員に関しては、直接的な人的被害はなかったことが不幸中の幸いでしたが、程度の差はあったとしても被害にあわれた方々は、大変なご苦勞をなさったことと思います。

当学会としても、どのような形で支援が出来るかという点について役員会で再三話し合っていました。学会費の免除については直ちに決定をいたしました。会員の方あるいは状況をご存じの方からの情報、また学会費の免除以外のご提案等ございましたら、事務局までご一報ください。

地震・津波による物的損害は、比較的短期間（数年？）のうちに解決されることなのでしょうが、原発汚染の問題は、今後数十年にわたってしかも広範囲に被害を受けるといわれますから、直接目に見えないだけに恐ろしいことであると思います。私のような老人には影響は少ないといわれますが、乳幼児まで含めて若い方への長期間にわたる健康被害は、十数年・何十年か後になって現れてくるでしょうから、心配です。これまで在って当たり前としてさほど気にとめてこなかった、空気・水・食物……。これからどうしたらよいのでしょうか。正確な情報が待たれます。

音楽が被災者の方々への力になっている事はいろいろと報道されてきています。人間が生きて行く上で、食・住・衣は不可欠ですが、目に見えない精神の部分に活力を与えるのは、音楽が一番です。被災された方々にとっては、精神的な傷は一生消えないで続くものだと思います。音楽表現に関わる学術団体として、長期的な支援に取り組んでいきたいと考えています。



大会・総会・懇親会

2011年6月11-12日に新潟県上越市・上越教育大学で開催された第9回「甘露」大会も、盛会の内に終える事が出来ました。4か所で同時進行する発表の選択に困るほど参加が多くなったということですね。普段の発表のときとは全く違う「顔」を見られる懇親会も毎回楽しみです。関係者の皆様に、敬意と感謝の意をささげます。

今回は2012年6月23日（土）～24日（日）、会場は山梨大学です。一人でも多くの方が参加されることを願っています。



会員の増加

日本音楽表現学会も発足以来10年、会員数も355名を超えました（7月15日現在）。初期のころは、役員が個人的に立て替えたり、数年分の会費を前払いしたりして運転資金のやりくりに苦勞したのですが、本年度の大会でご報告しましたように、予算関係もずいぶん改善され、学会基金も積み増しできるようになりました。



研究活動他

学会の「顔」である機関誌『音楽表現学』および『ニューズレター』の年3回の発行には、かなりの比重を置いてきています。幸いなことに質・量ともに年々向上してきていますので、今後もこのスタイルは守っていききたいものです。

2010年12月に出版いたしました、当学会初の論文集『音楽表現学のフィールド』（東京堂出版）は、おかげさまで予想以上の売れ行きで完売となり、本年度の大会では見本の展示のみで販売が出来ない状態でした。第2号の発刊が待たれます。ホームページの充実も今後の課題です。一方通行の「お知らせ」とどまらず、掲示板など、ネットを通じて会員相互の連携の場を提供し、日本音楽表現学会の更なる発展に資するよう、努力してまいります。



日本音楽表現学会第9回（甘露）大会報告

1) 甘露大会を終えて

大会実行委員長 後藤丹（作曲）

予想を超える多くの会員の皆様に、新潟県のこの小さな街にお集まりいただき、ありがとうございました。

街の知名度が決して高くない上、交通の便もあまり良くないので、全員ちゃんと上越教育大学まで辿り着けるのだろうか。3人くらいは「上越」新幹線で終点（新潟市）まで行ってしまうのではないかな？それも仕方がないね。などと実行委員会で話し合っていました。幸いそういう報告はありませんでした。大会終了後も、それぞれの職場やご家族のもとに無事、復帰しておられるはずで

す。

開催準備期間中には会長、事務局長など本部の方々の綿密で周到な働きぶりに圧倒され、それに比べれば地元実行委員会の仕事はまだまだ軽いと感じたくらいです。

いよいよ大会が始まり、音楽研究の錚々たる諸先輩や親しい音楽家たちが大挙して来学し談笑しておられる、というのが実に不思議な光景として目に映りました。大学創立以来、この音楽棟が最も輝いた2日間と言えるかもしれません。

今回は「お酒と音楽」が基調テーマでした。上

越市は銘酒の産地であるとともに、日本のワインの父と呼ばれる川上善兵衛、酒博士として名高い坂口謹一郎の故郷でもあります。皆さんは基調講演やシンポジウムで「アルコール」への考察を深められましたが、夜の实地活動でもそれなりの成果をあげられたのかどうか気がなるところです。

大会が済んで、大学構内は当然、また以前の日常に戻ると思いきや、意外にもそうではないのです。音楽棟の建物には、Aさんが研究発表で声を張り上げた教室、Bさんが心を込めて弾いたピアノ、Cさんが思わず歌い始めた机、Dさんが会費の計算をされたロビー、Eさんが弁当を食べ残した窓辺、といったふうに、大会の記憶があちこちに深く刻まれています。それは決して「つわものどもが夢の跡」という感じではなく、それどころか、私たちのイメージの中では金色のプレートを張られて燦然と輝いています。皆さんが残して行かれたこの美しい記憶は、今後、上越教育大学音楽コースの誇りと励みになることでしょう。大会を終えて、私たちは大きなプレゼントを受け取ることができました。

最後に、献身的な働きをしてくださった大会実行委員（ほとんどがいま言った身内の教員たちですが）とスタッフとして頑張った学生たちにも大きな拍手を送りたいと思います。

2) 大会参加者の声

日本音楽表現学会第9回「甘露」大会に参加して
篠原 良三（バリトン）

今回、兵庫県から650km離れた新潟で開催されると聞き、一瞬迷いました。しかし、実行委員長以下沢山のスタッフの協力の下、開催決定にいたった経緯に心を動かされ、喜びと共に研鑽できる幸せを噛み締め、行かせて頂きました。

オープニングでは「夏は来ぬ」の上越教育大学混声合唱団に始まり、さらに、元気一杯の奥会長

のユーモア溢れるごあいさつ、そして基調講演は「酒と音楽」。4帖半の部屋のいろりのある場所で地酒を交わしながら音楽談義がしたくなる講演でした。

私は声楽畑の人間ですから、こえ・うた・喉・ミュージカル分野の分科会に入れて頂き大変刺激を受けました。

この学会で感じたことは、「酒と音楽」は心の共振・共鳴を促すもの。もっと音楽を人生の一部として、うたの魅力・魔力・効力に迫る表現法を研鑽したいと思います。

本当に旅はしてみるものだと痛感いたしました。

昨年の旅は北京。ISME 世界大会への飛行機で偶然（それも往復とも）お隣になった奥会長と面識ができ、表現学会について色々とお教えていただきました。

それまで「学会」と名のつくものに何となく近寄りたいたいものを感じていましたが、大学の業績づくりに必要だし、勉強もしたいし・・・残念ながら演奏を軸にした学会がなく、これは演奏家側の怠慢でもあると思うのですが・・・そんな模索のさなか「日本音楽表現学会」と出会ったのです。

今回、大会に初参加させていただき、これこそ私が探し求めていた学会であると確信いたしました。権威主義が感じられなく、楽しく、しかし馴れ合いの集まりでもない。参加した（どれも意義深かった）研究発表では様々な議論が活発になされていたのが印象的でした。もちろん音楽表現の可能性の探求という意味で、志はひとつでしょう。

出不精者が頑張って旅に出ると良い事がありました！今年の旅は新潟上越。おいしいお酒にも出会えました。

東京が段々と蒸し暑い夏の様相を少しずつ見せ始めたような時に、私は「甘露」大会に参加できました。

私はずっと演奏家としての活動のみをしておりましたので、研究者としてはまだまだ駆け出し。お恥ずかしながら学会といったものに参加するのは初めての事でした。

緊張と期待とを胸に参加させていただいたこの学会で私は多くの事を学び取ることが出来ました。私個人にとっても甘露・お酒は非常に大切なファクターでしたので、やはり楽しみな部分も多かったのですが、開会式での実行委員長後藤氏のスピーチには感服いたしました。そしてその後の基調講演からの流れで、その晩はしっかりと研鑽と修養を積ませていただきました！

学会員の皆様の研究発表を拝聴させていただいて、改めて自分の視界が明るくなった気がしております。自分が今おぼろげに取り掛かろうとしている研究も不安は多いのですが、いつかこうした場で研究発表として出せるようなものになるよう挑戦していきたいと思っております。

実行委員会・事務局の方々のご尽力のおかげで、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。若輩者ではありますが、会員の皆様も、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。



3) 2011 年度総会報告

日 時：2011 年 6 月 11 日（土）16:00 ～ 16:50

場 所：上越教育大学 講義棟 301 教室

出席者数：70 名、委任状 114 通 合計 184 名（定足数：会員総数 350 名の 1/3 以上）よって総会は成立。

記 録：豊田典子

1. 開会の辞：杉江淑子事務局長

2. 議長選出：会員の総意によって以下が選出された。

議長：桂 博章

書記：豊田典子

3. 報 告：総会資料に基づき以下の事項が報告され、承認された。なお、当日配付資料（5）の次に追加項目があり、（6）以下の項目が順にくり下げられた。

(1) 2010 年度事業報告 (2010 年 4 月 1 日～ 2011 年 3 月 31 日)

杉江事務局長より、【資料 1】に基づき報告があった。続いて、第 8 回 (響の都) 大会荒川恵子事務局長より、村尾忠廣実行委員長に代わり、会員に対する謝辞が述べられた。

【資料 1】 2010 年度事業報告 (2010 年 4 月 1 日～ 2011 年 3 月 31 日)

1. 第 8 回 (響の都) 大会 2010 年 6 月 12 日 (土) ～ 13 日 (日) 於：京都女子大学音楽棟
2. 2010 年度理事会 第 1 回 2010 年 6 月 13 日 (日) 17:00-17:30 於：同上
第 2 回 2011 年 4 月 1 日 (金) 10:00-17:00 於：滋賀大学大津サテライト
その他 電子媒体による持ち回り会議
最終回 2011 年 6 月 11 日 (土) 於：上越教育大学
3. 学会誌編集委員会 第 1 回 2010 年 6 月 12 日 (土) 10:00-12:00 於：京都女子大学音楽棟
第 2 回 2010 年 8 月 3 日 (火) 9:30-17:00 於：クレオ大阪西部館
第 3 回以降 電子媒体による持ち回り会議と編集作業等
4. 論文集編集委員会 第 1 回 2010 年 6 月 13 日 (日) 17:15-18:30 於：京都女子大学音楽棟
第 2 回 電子媒体による持ち回り会議
5. 学会誌『音楽表現学』Vol.8 発行 2010 年 11 月 30 日 (火)
6. 学会論文集
『音楽表現学のフィールド』発行 2010 年 12 月 15 日 (水)
7. ニュースレター発行 No.1 2010 年 7 月 31 日 (土)
No.2 2010 年 11 月 30 日 (火)
No.3 2011 年 3 月 31 日 (木)
8. 2010 年会員名簿発行 2010 年 11 月 30 日 (火)
9. 後援 21 件 (目標値 30 件)
10. 会員数 335 名 (2011 年 3 月 31 日現在) (目標値 350 名)

(2) 第 8 回 (響の都) 大会決算報告

谷口雄資会計担当理事より、【資料 2】に基づき報告があり、承認された。

【資料 2】 第 8 回 (響の都) 大会決算報告

費 目		金 額 (円)	備 考	
【収 入】	大会参加費	1,050,000	学会員：	5,000×152 名 = 760,000
			非会員：(1 日につき)	3,000× 92 名 = 276,000
			学 生：(1 日につき)	2,000× 7 名 = 14,000
	『大会要項』販売	3,900	1 部	300×13=3,900
	広告費・ブース料	420,000		
	総計	1,473,900		
【支 出】	基調講演 講師謝礼	80,000		
	学生アルバイト	132,000		
	昼食代	60,000	含・当日の理事会・編集委員会・実行委員会会議費	
	会場費	0	大学共催による	
	印刷費	321,960	『大会要項』	281,400 ちらし 40,560
	通信費	55,049	『大会要項』発送	41,779 その他 13,270
	振込手数料	12,920	大会参加費	12,080 その他 840
	調律費	13,650		
	文具費	22,754	大会グッズ	21,090 その他 1,664
	雑 費	10,250	茶菓・雑貨	
	小 計	772,153		
	一般会計へ繰り入れ	701,747		
	総計	1,473,900		

(3) 2010 年度会計報告・監査報告

谷口雄資会計理事より、【資料3】に基づき報告があった。以下の5項目について補足説明があった。

・未処理金 ・理事会会議費 ・論文完売 ・雑費 ・学会基金

次いで海津幸子会計監査より会計処理が適正かつ正確に会計処理が行われていることが報告され、承認された。

【資料3】 2010 年度会計報告・監査報告

	費 目	決 算	予 算
【収 入】	学会年度会費 (302 名 × 5000 = 1,510,000) 親族割引 2 名 × 4,000 = 8,000	1,518,000	1,695,000
	賛助会員会費	5,000	5,000
	学会誌売り上げ	97,330	30,000
	『音楽表現学のフィールド』売り上げ	591,600	0
	利息	944	1,000
	大会から繰り入れ	701,747	428,000
	その他 (未処理金)	713,191	
	小 計	3,627,812	2,159,000
	前年度繰越	912,985	912,985
	学会基金	1,500,000	1,500,000
	合 計	6,040,797	4,571,985
【支 出】	『音楽表現学』 作成費	495,500	800,000
	ニューズレター、名簿 作成費	85,480	30,000
	理事会 会議費	0	10,000
	交通費	139,080	150,000
	学会誌編集委員会 会議費	14,450	15,000
	交通費	116,920	150,000
	論文集 出版補助・購入費	1,312,864	900,000
	作成費	24,970	100,000
	大会関連費	17,730	40,000
	通信費	124,590	170,000
	払込手数料	26,180	23,000
	雑費	122,545	105,000
	小 計	2,480,309	2,493,000
	次年度繰越	1,060,488	578,985
	学会基金	2,500,000	1,500,000
	合 計	6,040,797	4,571,985

以上の通り報告いたします。

2010 年 6 月 1 日

谷口 雄資 
 吉永 誠吾 
 長岡 功 
 海津 幸子 

監査の結果、以上に間違いありません。

2010 年 6 月 10 日

(4) 年会費納入状況

谷口雄資会計担当理事より【資料4】に基づき報告および以下の3項目について補足説明があった。

・未納による退会者なし ・親族割引 ・会費振込用紙の変更

中村隆夫前会長より、学会発足以来、順調な会計処理がなされ、学会の健全な運営がなされていることに対して、謝辞が述べられた。

【資料4】 年会費納入状況 (2011年3月31日現在)

会員数	未納状況	納入額
335名 (新入会員 62名)	2009年～ 9名 2010年 34名	¥5,000×302名＝¥1,510,000 ¥4,000×2名＝¥8,000 (親族割引) 総計 ¥1,518,000 振込手数料： ¥19,960 (¥80×131名＋¥120×79名)

(5) 2011-12年度編集委員の依頼

杉江淑子事務局長より【資料5】に基づき説明があった。前副委員長が次期委員長に任命される旨説明があり、伊野義博氏が委員長に、菅道子氏が副委員長に就任することが報告され、異議なく承認された。

【資料5】 2011-12年度編集委員 ◎は委員長、○は副委員長

再 任	新 規
◎伊野 義博、河本 洋一、木下 千代	安藤 珠希、小野 亮祐、○菅 道子

(6) 2011-12年度会長諮問会議メンバーの依頼

杉江淑子事務局長より、会長諮問会議メンバーとして、安田香前事務局長の就任を推薦する会長提案を受けて、理事会の賛同のもとに依頼することが報告され、異議なく承認された。

(7) 2011-12年度選挙管理委員の依頼

杉江淑子事務局長より【資料6】に基づき説明があり、異議なく承認された。

【資料6】 2011-2012年度選挙管理委員の依頼について ◎は委員長

再 任
◎坂東 肇、中 磯子、井上 朋子

(8) 2012-13年度会長・理事選挙について

坂東肇選挙管理委員長より【資料7】に基づき説明があり、異議なく承認された。

【資料7】 2012-13年度会長・理事選挙について

会則第11条および第12条に基づき、本年度は会長・理事選挙を行います。2010年度の場合、会長・理事の推薦・立候補は、2010年1月8日に開始し、2月8日に締め切っています。

(9) 学会論文集『音楽表現学のフィールド』出版・販売状況

杉江淑子事務局長より【資料8】に基づき説明があり、事務局の管理する論文集は完売、東京堂出版でも注文を返本で切り盛りする状態であるとの報告があった。

【資料 8】 学会論文集『音楽表現学のフィールド』の出版・販売状況

印刷冊数	計	550 冊
学会買取冊数	計	238 冊
{ 執筆者購入冊数		218 冊
{ 会員特別価格購入冊数		17 冊
学会から献本	計	5 冊
事務局在庫		0 冊

(9) その他

・育志賞の推薦について

博士課程の若手研究者を対象とする育志賞について杉江淑子事務局長より、昨年度の推薦者に関する結果と今年度には推薦の該当者なしとの報告があった。

・学会WEBサイトの移動について

北山敦康広報担当理事より、国立情報学研究所の情報発信サービスの停止にともない、現在使用しているサイトより移動する旨説明があった。具体的なことについては、ニューズレター 2011 年度第 1 号で周知することが報告された。

・『音楽表現学』第 9 号原稿応募状況について

伊野義博編集委員長より、17 本の論文投稿があったことが報告された。

4. 協議

(1) 2011 年度事業計画について

杉江淑子事務局長より【資料 9】に基づき、理事会の会議を一回追加することも含めて提案があった。拍手をもって異議なく承認された。

[資料 9] 2011 年度事業計画 (2011 年 4 月 1 日～ 2012 年 3 月 31 日)

1. 第 9 回 (甘露) 大会	2011 年 6 月 11 日 (土) ～ 12 日 (日)	於：上越教育大学
2. 2011 年度理事会	第 1 回 2011 年 6 月 11 日 (土) 10:00-12:00	於：同上
	第 2 回 2011 年 11 月 27 日 (日) 10:00-17:00	於：キャンパスプラザ京都 (予定)
	第 3 回 2012 年 3 月 31 日 (土) 10:00-17:00	於：滋賀大学大津サテライト
	その他 ネット会議	
役員改選にともなう 新旧役員の引き継ぎ会議	2012 年 6 月 8 日 (金) 13:00-17:00	於：山梨大学
	最終回 2012 年 6 月 9 日 (土) 10:00-12:00	於：未定
3. 学会誌編集委員会	第 1 回 2011 年 6 月 11 日 (土) 10:00-12:00	於：上越教育大学
	第 2 回 2011 年 8 月	於：未定
	第 3 回以降 ネット会議と編集作業等	
4. 学会誌『音楽表現学』Vol.9 発行	2011 年 11 月 30 日 (水)	
5. ニューズレター発行	No.1 2011 年 7 月 31 日 (土)	
	No.2 2011 年 11 月 30 日 (水)	
	No.3 2012 年 3 月 31 日 (木)	
6. 2012-13 年度 会長・理事 選挙	2011 年 10 月～ 2012 年 3 月	
第 1 回選挙管理委員会	2011 年 6 月 12 日 (日) (予定)	於：上越教育大学
2010 年度選挙公示	2011 年 11 月 30 日 (水)	於：「ニューズレター No.2」誌上
推薦・立候補受付期間	2012 年 1 月 8 日 (日) ～ 2 月 8 日 (水)	
第 2 回選挙管理委員会	2012 年 2 月 12 日 (日) (予定)	於：神戸大学

投票期間	2012年2月15日(水)～3月14日(水)	
第3回選挙管理委員会	2012年3月25日(日)	於：神戸大学
その他の議事と作業	ネット会議	

7. 後援 25 件
8. 会員数 375 名

(2) 第9回(甘露)大会予算について

谷口雄資会計理事より【資料 10】に基づき提案があり、承認された。

【資料 10】 第9回(甘露)大会予算

	費 目	金 額 (円)	備 考
【収 入】	大会参加費	610,000	学 会 員：5,000 円×100 名= 500,000 円 当日会員：3,000 円× 30 名= 90,000 円 学生会員：2,000 円× 10 名= 20,000 円
	『大会要項』販売	3,000	1 部 300 円×10 部= 3,000 円
	広告・ブース料	200,000	
	合 計	813,000	
【支 出】	基調講演講師謝礼	100,000	交通・宿泊費を含む
	学生アルバイト	125,000	
	昼食代	50,000	理事会、編集委員会、実行委員会の当日会議費を含む
	会場費	0	共催によるため
	印刷費	250,000	『大会要項』、ちらし、大会資料
	実行委員会会議費	10,000	
	交通費	50,000	
	通信費	50,000	『大会要項』発送費
	振込手数料	5,000	
	楽器調整費	20,000	
	文具費	20,000	
	雑費	20,000	
	小計	700,000	
	一般会計への繰り入れ	113,000	
	合計	813,000	

(3) 2011 年度予算

谷口雄資会計理事より【資料 11】に基づき、提案があり、承認された。(p.10 に掲載)

(4) 第 10 回大会開催期日と候補地について

奥忍会長より、来年度の大会会場が未定であること、背景に東日本大震災の影響、土曜の授業開講など、昨今の厳しい社会情勢があることなどの状況説明があり、次期開催地の立候補が呼びかけられた。

(5) その他

・東日本大震災への対応や支援について

安藤政輝副会長より、ニューズレター 3 号にも掲載したとおり、会員本人または家族が被災している場合、会費の免除等の措置があること、今後も支援の検討を続ける旨の説明があり、また会員からのアイデア提案が要請された。

5. 閉会の辞

杉江事務局長により、スムーズな総会の進行に対して、会員への謝辞が述べられ、16 時 50 分に閉会した。

【資料 11】

2011 年度予算

【収 入】	費 目	2011 年度予算	[参考] 2010 年度	
			決 算	予 算
	年度会費（会員数 335 名 ×5,000 円）＊	1,675,000	1,518,000	1,695,000
	賛助会員会費	5,000	5,000	5,000
	学会誌・論文集売上	60,000	688,930	30,000
	利息	1,000	944	1,000
	大会からの繰り入れ	150,000	701,747	428,000
	その他（未処理金）	0	713,191	0
	小 計	1,891,000	3,627,812	2,159,000
	前年度繰越	1,060,488	912,985	912,985
	学会基金	2,500,000	1,500,000	1,500,000
	合 計	5,451,488	6,040,797	4,571,985

【支 出】	『音楽表現学』	作成費	600,000	495,500	800,000
	ニューズレター	作成費	30,000	85,480	20,000
	名簿	作成費	0	0	10,000
	理事会	会議費	20,000	0	10,000
		交通費	150,000	139,080	150,000
	学会誌編集委員会	会議費	15,000	14,450	15,000
		交通費	150,000	116,920	150,000
	論文集	補助購入費	0	1,312,864	900,000
		作成費	0	24,970	100,000
	選挙管理委員会	会議費	10,000	0	0
		交通費	20,000	0	0
		郵送費	50,000	0	0
	大会関連		40,000	17,730	40,000
	通信費		170,000	124,590	170,000
	払込手数料		20,000	26,180	23,000
	事務費		200,000	0	0
	雑費		120,000	122,545	105,000
	予備費		100,000	0	0
	小 計		1,695,000	2,480,309	2,493,000
	次年度繰越		756,488	1,060,488	578,985
	学会基金		3,000,000	2,500,000	1,500,000
	合 計		5,451,488	6,040,797	4,571,985

＊年度会費収入予算（335 名）は 2011 年 4 月 1 日現在の会員数で算定。

